



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(95) カ
イメンウミヒドラ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(95) カイメンウミヒドラ. 紀伊民
報 2013

ISSUE DATE:

2013-04-24

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180212>

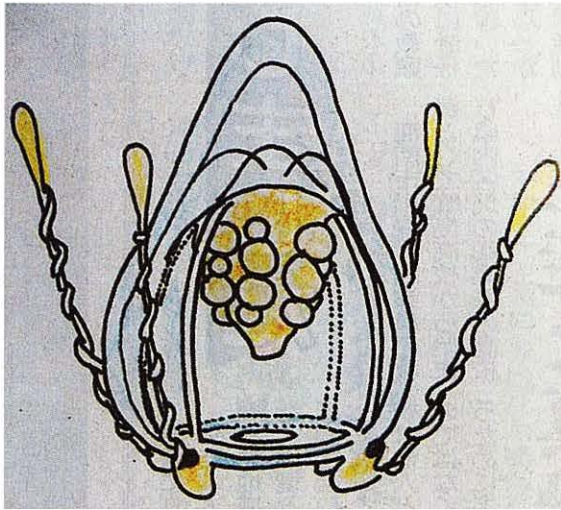
RIGHT:

© 紀伊民報社

紀伊民報

2013年(平成25年)4月24日 水曜日 (10)

カイメンウミヒドラ



雌雄で形の違うカイメンウミヒドラ (Yamada and Konno 1973 改写)

久保田 信

95



カイメンウミヒドラは、クラゲの名前が付いていない。若いポリプの段階で新種として初めて報告されたため、そのよつな和名となった。カイ

メンと冠されているのはポリプが海綿と共生していることにちなんでいる。ポリプの高さは1.5センチほどになるので、この類としては大型である。ポリプは海綿の体内に根を張り、そこから海中へと体を真つすく伸ばしている。50本以上の触手群の直上にクラゲ芽がたくさんつくられる。著者は田辺湾からこのよつなポリプを発見しているが、クラゲをまだ捕つたことがない。クラゲについては、飼育によって明らかになっているが、

日本のどの海からも野外採集の記

録はない。ポリプを南西諸島でも著者は発見しているのに、本種の地理的分布は広く、暖流域全体に生息すると推測される。

クラゲは雌雄で外形が違つというクラゲ界の変わり種である。雌の方が傘の天辺がよく突出する。この報告は、著者の恩師である山田真弓先生らが飼育によって解明し、1971年に白浜町で開催された第2回国際腔腸(こつちよう)動物学会で発表され、その論文集が73年に瀬戸臨海実験所から800ページの刊行物として報告されている。

クラゲの傘は成長しても高さ4ミリのままと小さい。触手は傘の縁にたつた4本だけある。触手に装填(そつてん)されている刺胞の塊がらせん状になっているのも特徴である。触手の根元にある膨らみには光を感じる眼点がある。口唇はなく、フラスコ状の胃袋の外側に配偶子が熟する。絵は多数の卵が形成されているので雌である。

(京都大学准教授)